

「エビデンス」選択の一助に

ちよつと得する

クスリ
の
知
識

<109>

新型コロナウイルスに関連した報道で「エビデンス」という単語を耳にします。日本語では「根拠」などと訳されます。1990年代から起こった新しい医療の潮流に「根拠に基づく医療」があり、英語の「evidence-based medicine」から翻訳されました。おそらく、これに関連してエビデンスという言葉がよく使用されるようになったと考えます。「根拠に基づく医療」とは単に研究結果やデータを頼りにするものではなく、「最善の根拠」と「医療者の経験」、そして「患者の価値観」を統合して患者さんにとってより良い医療を目指そうとするものです。

薬のエビデンスについて新型コロナウイルスのワクチンと治療薬を例に考えてみましょう。ワクチンは感染症を予防するために開発

された薬です。薬の効果が話題にされる時、「抗体価」という数値が示されることがあります。ワクチンを接種すると、ウイルスから体を防御するために必要な抗体が産生されます。ウイルスを失活させる作用があるものを中和抗体と呼び、この量を抗体価として表しています。つまり、理論的には抗体価が上昇すれば感染や重症化の危険性が低くなるのですが、私たちがワクチンに求めているのは抗体価の上昇ではなく、あくまでもウイルスに感染しないことです。「抗体価が上昇すれば感染を防げる」というのは仮説であり、「感染しない」という事実がエビデンスと言える

のではないのでしょうか。

治療薬についても同様の考え方があります。一番期待される効果は病気を早く治すことです。さらに肺炎などの合併症が予防でき、入院や死亡の危険性を減らし、また経済活動の低下を抑止できたら素晴らしいでしょう。薬が体内のウイルス量を減少させるという事実があったとしても、必ずしもこれらの治療効果を得られるとは限りません。

「根拠に基づく医療」がみなさんにとって本当に必要な薬を選択するための一助になれば幸いです。(竹下 秀司・県病院薬剤師会理事)

<毎月第4火曜日に掲載>